

教育研究評議会（第2回）議事要旨

日 時 平成25年4月24日（水） 10：33～11：31
場 所 第一議会議室

出席者 村松学長、大竹理事、藤井理事、勝山理事、加藤副学長、野口副学長、國分学系長、高田学系長、松川学系長、増田学系長、岸研究科長、伊藤評議員、新藤評議員、赤司評議員、高橋評議員、國仙評議員、山田評議員、繁田評議員、中島評議員、新田評議員、山崎評議員

以上21名

陪席者 萩上監事、堀口監事

議事に先立ち、学長から、以下のとおり報告があった。

- ・組織再編及び教育カリキュラムについて、文部科学省と交渉中である。
- ・課程認定の動向について、今朝の教員養成カリキュラム改革推進本部で説明を行った。今後も推進本部その他関係するところで説明する場を設け、協議していきたい。
- ・中央教育審議会の動向について、教育振興基本計画の策定状況や、新聞にも取り上げられた35人学級の話題など、確実な情報が分かり次第、ご報告したい。

I 議題

1 特任教員の配置申請について

自然科学系長から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、承認した。

2 大学院教育学研究科担当者選考委員会の開設について

人文社会科学系長から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、承認した。

3 共同研究の受入れについて

勝山理事から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、承認した。

II 報告事項

1 平成26年度入学者選抜日程等について

大竹理事から、配付資料に基づき報告があった。

2 寄附金の受入れについて

勝山理事から、配付資料に基づき報告があった。

3 専門委員会報告

特になし

4 その他

- 自然科学系長から、4月17日の全学フォーラムにおいて説明のあった、学部学生定員の大学院への移行について、一昨年度3月の評議会決定との差異について質問があり、学長

から、経緯と現状について説明があった。また、新田評議員から、教職大学院の大幅な定員増等となる場合は、大きな変更を伴うものと思われるため、慎重な議論を求めたい旨依頼があり、学長から、教職大学院とは適宜情報交換を行っているが、組織再編とセットで考えねばならない話であるため、概ね見通しが立ち次第お示しして、最終案は改めて教育研究評議会に諮りたい旨説明があった。

- 自然科学系長から、課程認定後の新カリキュラムの時間割を実際に機能させるために、実験室の確保等、必要な配慮をしていただきたい旨依頼があり、大竹理事から、現在状況を整理中である旨回答があった。なお、國仙評議員から、時間割について、再度新しい案を提出するよう調整中である旨併せて報告があった。
- 高橋評議員から、教育実習連絡教員の学生割当人数に不均等が見受けられるため、是正する工夫をしていただきたい旨依頼があり、学務部長から、実態を把握した上で検討したい旨回答があった。また、これを踏まえて、中島評議員から、平成26年度からの新教室においては、教室単位を基準として実習を割り当ててはどうか提案があり、学長及び総合教育科学系長から、従来及び現在の実習の割り当て方について補足説明があり、学務部長から、いただいた意見を参考に検討したい旨回答があった。
- 自然科学系長から、本学学生の構内における自転車乗車マナーに問題がある旨指摘があり、加藤副学長から、本件は従来から抱えている課題であり、現在学生委員会において、改善方策を検討しているところである旨回答があった。また、シルバー人材センターを活用して多くの人員を配置し指導するようにしたことにより、自転車マナーの意識改善が進んでいるように見受けられるが、今後更なる対策を講じていきたい旨併せて説明があった。
- 中島評議員から、前回の教授会資料にあった、研究費不正利用や内部通報等の問題発生時における手続きの在り方（実際的な関連部署・教室等の関わり方）について質問があり、加藤副学長から、案件に応じて対応は異なるが、臨機応変に必要な方々に対処をお任せし、あるいは相談させていただき、対応していくことが重要と考えている旨回答があった。これを受けて、中島評議員から、役割分担の意識が過剰になることで、却って実際的に関連する方々が無責任となってしまわないよう、仕組みを工夫していただきたい旨重ねて依頼があった。

以上

配付資料

- 資料1 特任教員の配置申請について
- 資料2 大学院教育学研究科担当者選考委員会の開設について
- 資料3 共同研究の受入れについて
- 資料4 平成26年度入学者選抜日程等
- 資料5 寄附金の受入れについて

- 参考1 教育研究評議会（第1回）議事要旨